

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

85

2016. 11. 9

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）などの兵庫県内の協同組合運動相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指してー協同が息づくまちづくりー」を基本理念として、協同組合の共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 第94回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催 ... 2
3. 第94回国際協同組合デー兵庫JCC宣言 4
4. 記念講演
「協同(人のつながり)の力で地域の課題を解決しよう！」抜粋... 5

Contents

5. 今協同組合では一各協同組合からの報告ー
 - 生協/JA（農協） 6
 - JForest（森林組合）/JF（漁協） 7
6. 協同組合運動に生きる
「協同組合の一員として」
兵庫県漁連 総務部 川崎 裕聡 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

2016 広島被爆ピアノ平和コンサートを開催



生協

8月7日、今年で8回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催、約350人がつどいました。会場は被爆ピアノの音色と平和への願いを込めた歌声に包まれ、次世代へ語り継ぐ平和への想いを新たにしました。

兵庫県産イチジクのゼリーを学校給食に



JA（農協）

イチジク産地の3市町、2JA、全農兵庫、県いちじく研究会、兵庫県学校給食・食育支援センターが、学校給食用「兵庫県産いちじくゼリー」を共同開発しました。9～10月に約15,000個を提供、幅広い世代へのPRを目指します。

JA 兵庫六甲パスカルさんだにてサワラのPR



JF（漁協）

9月18日、JA兵庫六甲内の「漁連の魚屋 とれびちひょうご」で、淡路島産サワラの刺身と炙りを振る舞いました。脂がのった秋のサワラは大好評で、開店と同時に始まった振る舞いは、すぐに予定していた200食に達しました。

コンプライアンス研修を開催



JForest（森林組合）

9月16日に県下の森林組合職員を参集し、農林中央金庫から講師を招いてコンプライアンス研修、人権啓発教育研修を実施しました。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5896
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 341-5082

第94回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 J C C）は7月1日（金）、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、第94回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、全世界の協同組合に携わる人々が心を一つにして協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を行う日です。県内からは、生協、J A（農協）、J F（漁協）、森林組合の組合員・役職員など約300人が参加しました。

第1部の記念式典では、兵庫県農業協同組合中央会の石田正会長が、主催者を代表して「格差と不安が広がる社会で、地に足の着いた協同組合活動の意義が見直されることを期待します」と挨拶。生活協同組合コープこ

うべの岡本孝子理事が「「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに、次世代に向け、協同組合間協同の連携関係を継続させる取り組みをさらに前進させます」と兵庫 J C C 宣言を読み上げ、満場一致で採択されました。

第2部では、studio-L 代表の山崎亮氏が「協同（人のつながり）の力で地域の課題を解決しよう！」と題して記念講演。各地の市民参加型プロジェクトの事例をあげながら、さまざまな人が試行錯誤を繰り返す中で、それぞれの役割を發揮したり、出来る・出来ないではなく、多くのアイデアを出し合うことが地域の課題解決につながることを、分かりやすくお話いただきました。また、協同組合方式で地域の活動を活性化させることの大切さを学びました。



主催者挨拶をする JA 兵庫中央会の石田会長



JCC 宣言を読み上げる岡本理事



会場の様子

第94回 国際協同組合デー兵庫JCC宣言

国連が宣言した「国際協同組合年」から4年が経過しました。私たち兵庫JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）は、協同組合間の連携を更に強める取り組みをすすめるとともに、協同組合の果たすべき役割とは何か、今一度原点に立ち戻り見つめなおしてきました。

農協・漁協・森林組合・生協が連携し「協同組合の持続的発展」に向け、昨年度は、次世代を担う協同組合の職員が参加し、交流と学びを目的に全3回の連続講座「虹の仲間づくりセミナー」を開催しました。今年度も引き続き「虹の仲間づくりカレッジ」を開催し、協同組合間の連携を更に強め、協同組合としての人材育成をすすめてまいります。

協同組合は、「共通の経済的・社会的・文化的ニーズを満たすことを目的とする、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されます。「協同組合の価値は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とし」、「協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする」とされ、これらの価値を「実践するための指針」が協同組合（の7つの）原則です。

人口減少、少子高齢化がすすむ中、私たち協同組合は今一度この原点に立ち戻り、人を基盤とし、助け合いの精神を高く掲げ、自らの意思と責任で、地域や暮らしを守り、将来に渡り地域になくてはならない存在となるよう、持続発展させていかなければなりません。

本日、第94回国際協同組合デーの開催にあたり、農協・漁協・森林組合・生協など兵庫県内の協同組合に集う私たちは、「協同組合は地域・社会に貢献できるか」をテーマに、次世代に向け、協同組合間協同の連携関係を継続させる取り組みをさらに前進させます。そして「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、心をつなぐ^{ひら}にして、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。

2016年7月1日

第94回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会

兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは

Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県下の JA（農協）、JF（漁協）、森林組合、生協の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回の協同組合デーを機に設立したもので、今年で33年を迎えます。

第94回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

記念講演

「協同(人のつながり)の力で
地域の課題を解決しよう！」(抜粋)

講師:studio-L代表 山崎 亮(やまざき・りょう)氏



1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院、東京大学大学院修了後、建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年 studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画作りなどに関するプロジェクトが多い。

著書に『コミュニティデザイン』(学芸出版社)、『コミュニティデザインの時代』(中公新書)など。

MEMORIAL LECTURE

私が代表を務める studio-L は「ギルド」、独立した個人事業主の集まりとして活動しています。協同組合もこれに近い方式から始まったと聞いて、親しみを持っています。

以前は建築の仕事をしていましたが、阪神大震災で多くの建物が倒れた一方で、地域の人々が協力して生活するのを見て、「地域のつながり、普段から協力できる仕組みを作るデザイナーになりたい」と思いました。2005年に studio-L を設立、地域に行き人々の話を聴きながら課題を見つけ、みんなで解決する、それを手伝うコミュニティデザインの仕事を始めました。

今日、みなさんに伝えたいのは、「早く行きたいなら一人で行け。遠くまで行きたいならみんなで行け」という言葉です。これはコミュニティデザインと協同組合方式に共通する考え方です。

協同組合は18世紀、ロバート・オウエンのニュー・ラナーク村から始まり、その一要素が例えば生協でした。物を売るだけではない方法で地域を良くしよう、というのが原点です。単に他企業と「早い」「便利」を競うのではない。例えば、配送トラックに模造紙を貼って、組合員に課題を書いてもらい、解決するために何ができるかを話し合う。協同組合の職員が担うのは、このように組合員の意見を引き出し、つなぎ合わせ、「いっしょにやろう」という雰囲気を作る、ファシリテーターとしての役割だと思っています。

例えば、福島県でアール・ブリュット(※) 専門美術館「はじまりの美術館」ができる際に、「美術館には地元の人に来ない、何か関わって欲しい」と相談されました。地元住民に聞いても意見が出ない、そもそも寄り合いに来ない。そこで、若くてイケメンの従業員を美術館前の空き家に住ませ、毎朝、道路の前で食事しながら通る人に挨拶させると、料理下手なので地元の人が口を出したが、2週間後には野菜が届くようになり、寄り合いにも来てくれるようになりました。その後は「ものづくりチーム」「魅力発信チーム」等で活動、開館時の垂れ幕もみんなで布切れを集めて作ったら、除幕式でヒモだけ抜けてしま

い、子どもたちが引きちぎってくれました。

住民参加型は予想できないことだらけです。だがそれがいい。効率よく進めることだけ求めると、人々から役割やつながりを奪い、リーダーに依存するただの「お客様」にしてしまいます。ぼちぼちの早さで、要領悪く試行錯誤しながら、失敗もケンカもする。そうしてアイデアを出し合う中で、それぞれの人に役割が生まれ、頭を使い、笑顔になり、健康寿命も延びるのです。

人が20歳から65歳まで、1日8時間働くとする約10万時間。その間は「早く」「効率的に」「正確に」行動することが評価され、全てがそうだと思込まれます。しかし90歳まで生きるとすれば、地域で生きるのは約20万時間。そこでは人と人との繋がり、信頼や役割が大事で、労働の論理で動く人のほうが落ちこぼれます。人は「正しい」ではなかなか動きません。「楽しい」等の感性をあわせて、主体的に動く状況をつくるのが重要です。

私が影響を受けたジョン・ラスキンは「あなたの人生こそが財産」「最も裕福な国は、幸福な人——他人に良い影響を与える人を、多く養っている国」と言っています。こうした人を増やすべきではないかと思いますが、地方創生などはお金を増やすことばかりです。このラスキンに影響を与えた1人がオウエンです。彼の思想を継いだロッヂデール公正先駆者組合には7つの原則や目標が掲げられ、それが今、世界中で実現しています。私はこうしたことにあこがれてコミュニティデザイナーになったので、協同組合方式には期待しています。

今はSNSなど、人と繋がる新しい方法ができています。協同組合方式も今の時代にあわせて変化しながら、コミュニティデザインと融合することができれば、と思っています。

※ Art Brut(仏)、「生(き)の芸術」。伝統や流行、教育などに左右されず、自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術のこと。

「虹の仲間づくりカレッジ」を開催

2012年の国際協同組合年を契機に、協同組合の役割をより一層発揮する取り組みが広がっています。兵庫JCCでは、2015年の「虹の仲間づくりセミナー」に引き続き、2016年は全3回の「虹の仲間カレッジ」を開催。次世代を担う協同組合の職員同士が、顔の見える関係をつくり、暮らし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えます。

第1回目は8月23日(火)～24日(水)に、生活協同組合コープこうべ協同学苑で開催。「県内協同組合の職員の交流を通じた協同組合間協同の実現」をテーマに、43人が参加しました。

1日目は各協同組合から「食・生産をめぐる活動」について報告。また、大学生協京阪神北陸統合事業部フードサービス事業部の金子秀美氏が「大学生の食の実態と大学生協の取

り組み」について講演しました。

2日目は、福井県立大学経済学部の北川太一教授が「これからの社会における協同組合の役割～食と農に根ざしたより良いくらしと、豊かな地域社会を創るために～」と題し、2012年の国連・国際協同組合年のねらいと成果、協同組合の共益と公益や協同組合間協同の重要性について講演していただきました。参加者は、それぞれの講演を受けてグループワークを行い、印象に残ったキーワードなどを出し合いながら、大学生の食の課題に対して協同組合で何が出来るかを考えました。

第2回は9月27日(火)～28日(水)に開催。参加者はその後、10月から12月にかけて、県内4大学の学生に向けて食と生産に関するさまざまな取り組みを実施します。



北川教授の講演を聴きながら、協同組合について考えました



大学生の食の課題をどう解決するか話し合います

今 協同組合では ー各協同組合からの報告

生協から

「兵協連 医療生協部会 研修会」を開催



杉野亜希子さんの講演

7月21日、兵庫県農業共済会館で兵庫県生協連主催「医療生協部会 研修会」を開催しました。「支部活動、班活動における担い手・後継者づくり」をテーマに、8 医療生協の役職員、組合員あわせて81人が参加しました。

研修会では、医療生協さいたま本部けんこう文化部 組合員サポート課 杉野亜希子氏を講師に「ニーズにあわせた医療福祉生協へ～組織改革と担い手づくり～」と題して、改革に至った背景や活動の見直しなど、地域

包括ケアシステムへの対応も含めた今後の課題についてお話しいただきました。

参加者からは「どの医療生協でも抱えている問題について、解決へのヒントを多くいただきました」などの感想が寄せられ、有意義な研修会となりました。



講演後、グループで意見交換を行いました

「第28回近畿地区生協・行政合同会議」を開催

8月29日、兵庫県民会館において、「第28回近畿地区生協・行政合同会議」を開催しました。地域住民の安全・安心な暮らしを支えるため、生協と行政のパートナーシップを深めることを目的に、毎年開催しています。

近畿地区生協・行政合同会議は、近畿地区生協府県連協議会(福井・滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫の近畿2府5県の生協連で構成)の主催により各県持ち回りで開催していますが、今回は兵庫県生協連が当番でした。

「安心してらせる地域社会づくりをめざして」をテーマに厚生労働省社会・援護局地域福祉課をはじめ、日本生協連、近畿地区2府5県の生協行政担当者および生協連役職員が、情報交換を行いました。



生協と行政のパートナーシップを深めました

JA(農協)から

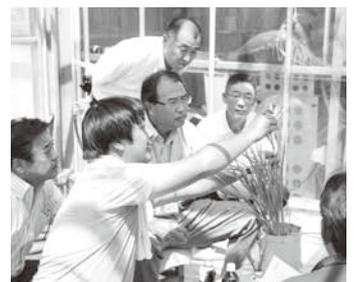
水稻新品種育成に向けて推進会議を開催

県とJAグループ兵庫等で組織する「県民みんなに魅力ある兵庫米づくり推進協議会育種部会」は8月12日、加西市の県立農林水産技術総合センターで水稻新品種育成推進会議を開きました。

同センター農産園芸部の澤田富雄部長から、2016年度は4つの育種目標のうち、「キヌヒカリ」に替わる高温に強く食味の良い品種を最重点に、交配を行っているとの報告がありました。また、改修した世代促進温室等の見学、育種の交配デモンストレーション、導入した実験機器による食味試験を行いました。

JA兵庫中央会の浜田充専務は開会にあたり、「新品種育成は将来に渡って取り組む大きな事業。関係者間の意見交換による情報共有を図りたい」とあいさつ。

同センターの山内博司所長は「入口から出口まで、関係者が共同して新品種を育成し、9年後には県内消費者に届けたい」と意気込みを話しました。県農産園芸課の多田勝利課長は「新品種の誕生まで関係者各々が覚悟を持ち、育種、生産、販売までの役割を果たし、県民みんなに魅力ある兵庫米づくりを進めよう」と決意を述べました。



参加者による受粉作業

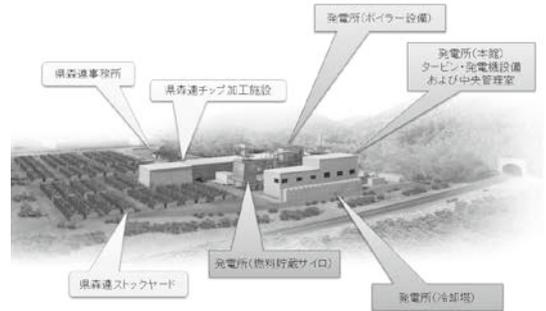
JForest(森林組合)から

「兵庫モデル」による木質バイオマス発電事業が12月からスタート

関西電力グループによる「朝来バイオマス発電所」が、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)を活用し、今年12月から売電事業を始めます。それに伴い、兵庫県森林組合連合会は発電用燃料製造施設「兵庫県森連バイオマスエネルギー(be)材供給センター」を発電所に隣接して整備するとともに、県下森林組合や大規模森林所有者等からなる供給協議会を設立し、安定供給体制を構築してきました。

この木質バイオマス発電事業は、木材供給側(県森連、兵庫みどり公社)と発電側(関電)及び行政(兵庫県)の協働による取り組みが特徴で、「兵庫モデル」として全国的に注目されています。今まで建築用材等として不向きなため、価値がなく、山林内に放置されていた未利用木材が発電用燃料として積極的に利用されることにより、木材供給側である森林組合系統としては、経営の安定、雇用の拡大が図れるものとして期待しています。

県森連は、林業を中心とした地域経済の活性化や災害に強い森づくりに寄与するため、関係事業者との協力の元、この木質バイオマス発電事業に取り組んでまいります。



「朝来バイオマス発電所」および「兵庫県森連バイオマスエネルギー(be)材供給センター」施設イメージ図
(場所：朝来市生野工業団地内)

JF(漁協)から

漁連の魚屋 とれぴちひょうご



漁連の魚屋 とれぴちひょうご

今年4月にグランドオープンした「漁連の魚屋 とれぴちひょうご」(JA兵庫六甲 パスカルさんだ内)がオープンから半年を迎えました。

「漁連の魚屋 とれぴちひょうご」は、以前はパスカルさんだの店先に移動販売車で伺い、移動鮮魚店として販売していました。しかし、移動販売車では魚をさばいて販売することができず、ご利用いただいている消費者の皆様からのご要望をいただき、パスカルさんだ内に常設店舗としてグランドオープンしました。

それまでは鮮魚・活魚が中心でしたが、常設化してからは兵庫県産の新鮮な鮮魚や活魚はもちろん、釜揚げシラスやタコのやわらか煮などの加工品や、オリジナルの握りずしや巻きずし、さらに唐揚げ、コロケなどのお惣菜や海苔など、瀬戸内海と日本海の幸をお楽しみいただき地域の消費者の皆様にご愛顧いただけるよう、多彩な品ぞろえを心がけています。

また、月に一度は旬の魚の試食やタッチプールなどのPR活動を実施しています。

このようなPR活動を通して「漁連の魚屋 とれぴちひょうご」をご利用いただくきっかけづくりと、兵庫の魚のおいしさを知っていただくとともに、パスカルさんだ全体が盛り上がり、JAとJFとの協同組合間協同によりさらに互いの連帯感が高まれば、と考えています。

「漁連の魚屋 とれぴちひょうご」は、新鮮で安心・安全なおいしい魚を届けるだけでなく、様々な魚食の情報発信基地として、地域の消費者の方々に愛される店舗を目指します。



新鮮な兵庫県産のさかな

協同組合運動 に生きる

協同組合の一員として

兵庫県漁連 総務部 川崎 裕聡



私は2009年4月から兵庫県漁連で働くことになりました。最初の配属先である「のり共販部」に入って、初めて兵庫県でのりを生産していることを知るぐらい、兵庫の漁業に関して、知識や関心が乏しい状態からのスタートでした。

就職してから、のり海藻事業本部 のり共販部 → SEAT-CLUB → 石油事業本部 石油部 → 組織統括本部 総務部と、これまでに4つの業務を経験しました。仕事内容が事務的なことがメインだったこともあり、組合員（漁業者）の方と接する機会が少ないまま毎日が経過していたように思います。

そんな中、協同組合ということを考えるようになったのが、兵庫 JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）が中心となって取り組んでいる活動に参加し始めたころでした。

初めに参加したのが、他の協同組合の方々と親交を深め、協同組合間の横の連携をつなげていこう！という目的で2013年12月に開催された「協同組合の源流を探る旅」でした。

千葉県旭市の大原幽学記念館、東京都世田谷区の賀川豊彦記念松沢資料館、神奈川県小田原市の尊徳記念館の3ヵ所をまわりながら、協同組合の歴史について学ぶことができ、また、他の協同組合の方から、活動内容や協同組合への熱い思いを伺うことができました。

次に参加したのが、2015年9月～2016年1月にかけて開催された、虹の仲間づくりセミナー（全3回）でした。

三木市にある協同学苑を拠点に、協同組合って

なんだろう？協同組合に求められているのは何だろう？協同組合にできることは何だろう？といった、協同組合について深く考える機会になりました。

また、虹の仲間づくりセミナーでは、生産者の方々を訪問することもあり、パソコンと向かい合い机の上で業務をこなしている私にとっては、とても新鮮な体験となり、普段では感じることの出来ない経験となりました。どの訪問先も、地域とのつながりを大事にしており、相互扶助の良い関係を築いているように感じました。

協同組合という組織の中では、組合員に上下はなく全員が平等であることや、利用者が出資者であり運営者であるという仕組みを理解したことや、兵庫 JCC のセミナーに参加して、協同組合は人と人のつながりを感じることの出来る組織である、ということを実感するようになりました。

人の生活には「食」というものが不可欠になります。その「食材」を提供しているのが、漁業者、農業者といった生産者である。その生産者のフィールドを豊かなものにするためには森の管理を行う必要があります、最後に消費者と生産者を結ぶ生協がある。兵庫 JCC に参加している生協、農協、漁連、森林組合は「食」を支え合っている組織なのだという認識を持ちました。

最後に、私は、兵庫県漁連に所属していますので、今回のセミナーで芽生えた人とのつながりや、協同組合間の連携の可能性を最大限に活用し、協同組合の一員として自分の仕事に誇りを持ち、漁業の活性化に貢献していきたいと考えています。